

平成 3 0 年度施政方針

平成 30 年第 1 回与那国町議会（定例会）の開会にあたり、平成 30 年度一般会計予算案をはじめ、各特別会計予算案並びに諸案件を提案し、ご審議をお願いするとともに、町政運営に取り組む施政方針と、政策の概要を申し上げ、町民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

はじめに

私は、昨年 8 月 6 日執行の与那国町長選挙において、多くの皆様から温かいご支援をいただき、4 期目の当選をさせていただくことができました。

これは、私のこれまでの 3 期 1 2 年の町政運営について、一定の評価をいただいたと認識しております。選挙期間中に皆様からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止めるとともに、町民から付託された重責を厳粛に受け止め、町民の福祉の向上と与那国町の発展のため、全力をあげて町政運営に取り組んでまいる所存です。

さて、与那国町は昨年、町制施行 70 周年を迎えることができました。12 月 2 日には多数のご来賓のご臨席を賜り、町民とともに記念式典・祝賀会を盛大に挙行することができました。この場をお借りし、改めて御礼申し上げます。引き続き、町民共々には次世代に向かって、町勢の振興発展に一層ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、この度、台湾東部において大きな地震が発生し、取り分け花蓮市を中心に大きな被害が出ていることが報じられる等、大変心配しているところでもあります。お亡くなりになられた方々への御冥福を心からお祈りするとともに、被害に遭われた方々に対し、心からお見舞い申し上げます。ここに姉妹都市花蓮市の日も早い復興をお手伝いするため、与那国町としていち早く義援金の募集を開始したとともに、見舞金を予算化した上で、来月には花蓮市を慰問し、与那国町民の心中を直接お伝えできればと思います。斯かる状況を勘案し町民皆様のご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

来る3月28日には、天皇皇后両陛下が与那国町に行幸啓されることになりました。このことは、与那国町にとりまして大変名誉なことであり、歴史的なことでもあります。両陛下におかれましては、日本最西端之地や与那国馬、ヨナグニサン、町漁のカジキ等のほか、伝統芸能の棒踊りを御覧頂く予定をしております。町民の皆様と両陛下をお迎えするとともに実りある行幸啓であられます様、町民皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

私の4期目の任期はすでにスタートをしておりますが、町民の生活向上を図ることの集大成として、任期期間中、町政運営について、次の9つの施策を着実に実行し、行政運営の究極の目的であります住民福祉の向上に向け、鋭意取り組んで参りたいと考えております。

沖縄県の県内経済は、観光や雇用関連指数が前年を上回るなど、平成 24 年
以来、景気の拡大は続いているとしています。それなどを踏まえ、平成 29 年
の入域観光客数は 940 万人と 5 年連続で過去最高を更新したほか、完全
失業率、有効求人倍率、農業生産額、小中学校の全国学力・学習状況調査に
おける全国平均との差など、県政運営の成果が着実に上昇しつつあるとして
います。このような中で沖縄県は 21 世紀ビジョン基本計画に基づく各種
施策を展開することにより、安全・安心に暮らせる優しい社会を構築する
とともに、アジアのダイナミズムを取り込むことなどにより、経済全体を
活性化させ、安定的に発展する好循環を創り上げていくとしています。

2017 年の八重山観光入域客数は過去最高の 138 万 6 千人で、前年を 13 万
8 千人上回りました。八重山の観光産業は好調を維持しており、2018 年の
八重山観光入域客数は 141 万人に予測値が設定されました。ここに本町の観
光入域客数も右肩上がりに伸びており、2017 年は統計を取り始めて以来、初
の 4 万人台を突破致しました。引き続き持続可能な魅力ある観光商品づくり
に努めてまいります。

次に、平成 30 年度における施策の概要について、主なものをご説明申し上
げます。

1 産業の振興

① 農業の振興

第一次産業である本町のさとうきび振興については、「さとうきび優良種苗安定確保事業」により、優良種苗の確保及び農家への普及と肥培管理の徹底を図ります。製糖工場の操業については、昨年を引き続き、年内操業ができるよう働きかけ取り組んで参ります。

更に地域の製糖事業者による人材確保と製造工程の合理化を支援するための「沖縄製糖業体制強化対策事業」に取り組み、期間工等の宿舍・地域活性化に資する施設の整備に係る事業計画を策定します。国の要綱ができ次第、予算化を行い期間工の宿舍の整備を推進してまいります。

水稲の振興については、後継者の育成及び安心安全な米作りを支援し、水田農業の振興を引き続き図ります。

干ばつ対策については、「与那国町干ばつ対策協議会」を適時に開催し、早期に干ばつ対策の諸事業に取り組めます。

農業生産法人、その他団体が出荷する野菜、果樹、薬用作物の沖縄県内への空路輸送費に対し支援を行います。営農基盤の整備が遅れている状況下、本町の自然環境に適した新たな農作物として、野菜やクシティ（コリアンダー）等の栽培を町内の農業従事者団体を対象に、ビニールハウスにて実証栽培を行います。

また、クシティ（コリアンダー）については、商標化並びに登録を申請し、

与那国島独自の野菜として加工品開発を推進する体制を整える様努めてまいります。

② 漁業の振興

小規模離島である与那国町では漁業は重要な産業の一つであります。しかし、近年漁業従事者の高齢化が進むとともに過疎化も進んでいることから、島内外から次世代の担い手を積極的に育成することが極めて重要であります。引き続き「与那国町漁業担い手育成プラン事業」にて漁業従事者団体に支援を行います。新規・既存漁業者に漁業設備の貸出し、漁業経営の安定化を図るため、平成 30 年度より事業実施に係る費用の 90 パーセントを補助し、本事業の充実強化に努めてまいります。

③ 畜産の振興

与那国町の和牛生産を推進すると共に、繁殖雌牛の生産基盤の拡充・強化を促進し、肉用牛の資質向上を図るため「優良繁殖雌牛導入事業」にて畜産農家に優良繁殖雌牛購入費用の 1/2 以内、1 頭当たり 50 万円を上限とし支援いたします。近年、母牛導入価格が高騰していることから、畜産農家の更なる負担軽減を図るため、1 頭あたり 10 万円の支援を併せて行います。

④ 商工業の振興

日頃より触れる機会の少ない与那国町の特産品の良さを知ってもらう為、県内はもとより県外の物産展などの集客力を利用した出展に支援を行います。今年度も引き続き、特産品の PR を行い県内及び県外への販路開拓を図ります。「与那国島特産品アピール強化事業」の成果も着実に現れており、毎年開催されている離島フェアや去る 2 月に横浜の大型ショッピングセンター「三井ショッピングパークららぽーと横浜」で開催された第 2 回目となる「与那国島フェア」は大好評でした。さらに今年度は、県内外での物産展開催を予定しております。引き続き与那国島の特産品販路拡大に努めます。また、ふるさと納税の返礼品をとおして特産品の認知度向上に努めてまいります。

ふるさと納税の財源により設置された、「ぼんたドゥナン島基金」を活用し、与那国島の地域振興、環境の保全・改善を目的に実施する、「どうなんまちづくり活動」や、与那国町の新たな雇用創出に向けて実施する、「どうなん活性化事業」を企画する個人や団体に、引き続き助成を行ってまいります。

本町を代表する伝統工芸品の「花織り」は、約 500 年の歴史があります。その知名度は県内はもとより、県外でも低いのが現状です。伝統織物協同組合を中心として、後継者育成や PR 事業、

情報発信及び織物体験など様々な取組みを展開しているところ
あります。今後は、気軽に機織り体験や与那国花織りの魅力を発信
できる施設の整備を行います。伝統工芸館は、平成 29 年度に
おいて策定した基本計画を基に、平成 30 年度は実施設計を行い、
31 年度で施設建設に取り組んでまいります。

⑤ 観光産業の振興

「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」及び「与那国島一周
マラソン大会」を引き続き実施するとともに、イベントの情報発信
をしっかりと行うことで、観光客等の誘客と滞在時間長期化の促進に
努めてまいります。島に数多く存在する魅力的な地域資源を活用
した新たな観光メニュー開発に取組み、与那国島の観光価値の向上
を図ります。利便性と安全性が確保された観光地を提供し観光客等
が安心して利用できる環境を整備するため、「サンニヌ台」(景勝地)
の遊歩道等の整備工事を行います。景観に配慮した観光案内版への
更新を実施すると共に、インバウンドへの対応として多言語での
整備を引き続き実施いたします。また、以前から要望のあった祖納
港付近に公衆用トイレを整備することにより観光客及び住民の
利便性の向上を図ります。

⑥ 交通の確保

島を結ぶ航路・航空路は、住民の生活や地域経済にとって重要な交通手段であり、また都市圏との交流、物流、観光、産業活動に欠くことのできない重要な役割を果たしております。沖縄県が行う離島住民等交通コスト負担軽減事業の継続実施と拡充に努めてまいります。

現在、与那国空港に就航している機材は平成 29 年度で予定の機すべてが Q 400CC (50 席) に更新されました。新機種の導入により貨物の積み残しは、ほぼ解消されたものの、団体旅行者の誘致になお課題が残っております。日本最西端の島として、観光産業の活性化を担うためには、チャーター便の積極的な誘致を図る必要があります。株式会社フジドリームエアラインズが企画するチャーター便が 3 月 1 日から 29 日にかけて県外から就航し、約 2000 名の旅行者が与那国島を訪れます。今後は、チャーター便の誘致に欠かせない地上支援機材の常備を進めチャーター便などの就航率の向上と航空会社の負担軽減に努め、誘客活動を積極的に展開してまいります。

2 教育・文化の振興

① 学校教育の充実

本年度も本町の姉妹都市である台湾・花蓮市への小学生のホームステイを行い、島の次世代を担う少年少女の異文化交流と体験学習を深めることにより、国際的な広い視野と高い語学力を持つ人材育成を図ります。

また、町内の中学生を対象として、ジュニア期の早い時期に欧米への語学研修（短期ホームステイ）の支援を行うとともに、海外での生活体験を通して外国語への学習意欲を喚起する機会をつくります。また、国際交流を通して地域文化を見つめ直す機会を提供することになり、豊かな国際感覚を身につけた人材の育成、及び町の将来を担う人材の育成を図ります。

町内の児童生徒の各種大会派遣費（航空運賃等）を支援し、与那国島に住む子供たちが持つ多様な能力・才能を発揮する機会を確保します。貴重な経験を得ることができる機会をより多く提供することにより、本町の未来を拓く子供たちの能力向上を図ってまいります。

② 教育施設の充実

児童・生徒がよりよい学びができるよう、教育環境の整備を進めてまいります。老朽化が著しい比川小学校校舎の建て替えに向けて地質調査及び実施設計業務の実施を予定しておりましたが、補助事業の更なる効率化を図るため、新年度にて予算措置を行い、校舎の建て替えを推進いたします。

また、幼稚園、小中学校の老朽化したトイレの修繕及び洋式化については、昨年度に引き続き取組みます。空調設備につきましては、普通教室を優先に

設置してきたところですが、今後は、特別教室も随時設置してまいります。

③ 文化の振興

平成 29 年度から 3 年計画で、「海底景観資源調査事業」に取り組んでおります。平成 29 年度は、与那国島の海底景観観光の中心となっている南東岸から南岸について、マルチビーム測深機を用いて海底測量を実施いたしました。精密海底地形図が完成すると、陸上と同じレベルで地形・地質学、考古学、生物学など様々な分野での研究が可能となり、科学的な成果を創出することが期待されております。また、精密な地形模型を作成することにより、観光や文化・教育事業にも役立てることが期待されております。引き続き調査を実施し、与那国島のダイナミックな海底地形景観を世界中に発信してまいります。

平成 24 年度から取り組んでまいりました「与那国方言保存継承支援事業」につきましては、平成 29 年度までに与那国語辞典の素案原稿が完成いたしました。今年度は編纂委員会の最終的な審議を経て、継承に力点を置いた用例豊富な与那国語辞典を発行いたします。

「むぬい ばちたや ちま ばちるん。 ちま ばちたや うやばちるん。

与那国語の消失は「どうなんとう」としてのアイデンティティの喪失、祖先から受け継いできた貴重な伝統文化の消失につながりかねません。

発刊された辞典が多くの町民に活用され、若い世代への継承を促進し「DONANMUNI」復興に寄与することを期待しております。

また、ドゥナンスンカニ大会につきましては、毎年2月第4週日曜日を開催日として固定し、全国の郷友会との協力体制の強化、大会認知度の向上を図り、地域イベントとして、いっそう盛り上げてまいります。

3 医療・福祉の充実

① 医療の充実

平成23年10月から指定管理に移行した与那国町診療所は、公益財団法人地域医療振興協会が引き続き指定管理者となり診療所の管理運営を行ってまいります。

今後も、診療所運営の安定化を図るため、同協会には指定管理者を継続していただき、少子高齢化が進む中、住民の健康づくりを推進するため、同診療所と行政が連携し、個々の事情に即応した健康支援をきめ細かく行い、持続可能な体制づくりに努めてまいります。

② 母子保健・児童福祉

妊産婦が島外医療機関を受診する際の経済的負担の軽減を図るため、「少子高齢化対策事業」を実施しておりますが、事業内容を

一部見直し、妊娠から出産までに必要な渡航費等を助成いたします。

③ 医療・福祉

特定不妊治療を受ける夫婦、がん患者、子宮頸がん予防ワクチンによる予防接種後に多様な症状を呈している患者、小児慢性特定疾病児童、指定難病患者等、町民が島外の医療施設へ通院する際に要する負担を軽減し、適切な医療を受ける機会を確保する離島患者等支援事業を実施いたします。

④ 健康づくり

町民の健康・福祉への普及・啓発を図り、安心して生き生きとした町づくりを推進していくため、「どうなん健康づくり21推進協議会」を中心に関係機関、関係団体と連携しながら町民の健康・保持の増進に努めてまいります。

毎年5月に行うチャレンジデーへの参加、また、11月に行う「福祉と健康づくりの集い」など保健福祉分野のみならず、スポーツ振興分野との連携を図り、住民の健康増進を図ってまいります。

⑤ 食育推進

与那国町食育推進計画が平成29年度末に策定されました。当計画に基づき、健康は基より、地産地消、食文化の継承など多分野に広がりをもつ「食育」が推進されるよう、地域住民をはじめ関係機関・団体と連携した

「健康長寿の島」を目指します。

⑥ 高齢者福祉

「与那国町の老人が安心して暮らしていけるように役立ててください」と与那国町出身の男性から1億円の寄付をいただきました。その寄附金を財源に基金を設置し、高齢者に資する事業として、「特別養護老人ホーム月桃の里」を町民が利用する場合、月2万円の助成を行います。

超高齢社会を迎える中、与那国町も高齢化が着実に進行しております。介護度の進行を遅らせるための予防介護が重要な取組みになります。昨年度策定された「第7期介護保険事業計画」に基づき、介護予防に重点を置き事業を展開してまいります。引き続き、与那国町社会福祉協議会が運営する「ケアセンターがんどう」を中心に、通所介護、訪問介護等の各種介護サービス及び地域支援事業の充実に努めてまいります。

4 ゴミ対策

現代社会の生活形態が大量生産、大量消費、大量廃棄という浪費型の生活様式になり排出されるゴミの量も毎年増加傾向にあります。一般廃棄物につきましては、現在、最終処分場に直接埋め立てていることから、予定よりも早い時期での埋め立て容量に達することが懸念されます。平成26年度から実施している焼却施設整備事業は、平成28、29年度において実施設計及び

一部造成工事を行いました。本年度から3カ年計画で焼却炉施設本体の建設に着手いたします。

5 生活基盤の整備

① 県道・町道の整備

平成27年度に事業採択された県道217号線については、地権者や県との連携を密にし、道路利用者の安全が確保できるよう事業推進に努めます。

また、県道216号線については、歩道設置事業に着手しておりますが、利用者の安全が早期に確保されるよう事業進捗の加速を沖縄県に要望してまいります。町道の整備については、久部良バリ線他を平成30年度で完了し、北浦野2号線と与那国中学校線は本年度に着手いたします。また、祖納部落内線については、平成31年度以降の工事着手に向け、関係者の理解が得られるよう事業計画の説明を行ってまいります。

② 農業基盤整備

畑地かんがい営農の推進にあたり、安定的なかんがい用水を確保するための整備とともに、地下ダムの建設を関係機関に要望してきましたが、今月から農林水産省による町の課題等についてのヒアリングが始まりました。引き続き事業採択に向け要請してまいります。

県営事業による土地改良整備については、南帆安地区及び鳴仲地区が円滑

に推進できるよう引き続き支援してまいります。また、比川田原地区農山漁村活性化対策事業を引き続き実施し、立田神地区のため池の改修及び満田原地区のほ場整備については、県と調整を図っており、地権者の同意を得ながら平成 31 年度新規採択を目指してまいります。

③ 港湾整備

沖縄県は、祖納港の利用促進を図るため、港内の静穏度を高めるための波状堤整備工事を平成 28、29 年度で行いました。祖納港を安心して利用できるようナンタ橋付近の堆積した砂の除去作業や街灯の設置工事等を実施しました。今後も引き続き利用者、船舶の安全が確保できるよう関係機関に強く要望してまいります。

④ 漁港整備

沖縄県管理の第 4 種漁港、久部良漁港の整備につきましては、干満時関係なく漁船への乗り降りが容易になる浮き栈橋の設置や強風時にも安心して出入港が可能になる防風柵の設置、及び大型船の陸揚げが可能な巻き上げ機の整備など、漁民から強く要望を受けておりました。沖縄県と調整した結果、平成 30 年度から平成 33 年度にかけて、沖縄県が事業主体となり防風柵、浮き栈橋、及び大型巻き揚げ機を随時整備いたします。引き続き沖縄県と連携し久部良漁港の整備を推進してまいります。

⑤ 水道整備

老朽化が著しい水道施設の基幹改良や浄水施設の耐震化、生活環境の改善を図るための浄水方法を変更し、硬度の低減を図るため、「与那国町簡易水道事業」を平成 29 年度から平成 38 年度にかけて実施いたします。硬度軽減化施設の整備については、平成 30 年度から 3 ヶ年かけて実施いたします。なお、その間の水道基本料金の無料化を実施してまいります。

⑥ 定住促進

平成 24 年度から実施している町営住宅の建て替え事業を引き続き実施し、平成 36 年度までに 128 戸の町営住宅の整備を計画しております。快適で安全性を確保した住宅の整備に努めてまいります。

昨年度は、古民家活用型定住促進住宅 1 棟、いわゆる体験型住宅が完成しております。今年度も「与那国町古民家活用型定住促進モデル実施計画」に基づき、古い建築技術と現代の建築技術を融合させた古民家の整備を促進し、I ターン者が島内で安定した移住・定住体験ができる住宅の提供に努めてまいります。

6 ICT利活用の促進

平成 28 年 1 月 10 日に離島地区海底光ケーブルが敷設され、同時期に

L T E サービスが開始されたことにより、本土・沖縄本島との情報格差の是正が図られつつあります。今年度も引き続き、小中学生を対象とする家庭学習支援のための Web 会議システムを用いたオンライン双方向授業を行う「町営学習塾」を開設いたします。今年度よりタブレット端末を使用した新しい学習方法の導入を行い、子ども達の習熟度を細かく分析し、苦手分野の克服と得意分野を伸ばすことを目指した習熟度別の学習に取り組むことで基礎学力の向上を図ります。また、子ども達に理数科目に興味をもってもらうためにロボットを使用したプログラミング学習を導入いたします。

本町は、昨年度、I C T を活用した新たな取り組みとして、「離島教育環境改善事業」を実施いたしました。オンライン双方向通信を活用し遠隔で高等教育を受けることのできる可能性を検証する実証実験、複式学級の課題解決を検証する学校間での合同授業を二本柱とし、実証実験では本町と琉球大学をつないでの模擬授業を3日間行いました。現在は本町、琉球大学、沖縄県、有識者のメンバーで構成される検証委員会を立ち上げ昨年度の実証実験の検証を行っております。

複式学級の課題解決に向けての合同授業では昨年度、与那国中学校と久部良中学校を I C T でつないで計4回の合同授業を実施した他、宮崎県えびの市の飯野高校、島根県海士町の島前高校との島外交流学習を開催いたしました。大人数で学習することにより、普段の授業より多様な考えに触れる機会を子ども達に提供できた他、久部良中学校の生徒には専門の教科

担任による授業を実施することができました。島外交流学習ではお互いの地域紹介などを通して他の地域の人と交流し生徒たちの社会性の向上が図れました。

平成 30 年度は実証実験を引き続き行い高等教育の可能性の検証を深めていく他、合同授業では中学校はもちろんのこと小学校にも I C T 機器を設置し複式学級の課題解決に向けて取り組んでまいります。

与那国町は、N T T ドコモと「I C T 利活用による地域活性化とまちづくりの促進に関する連携協定」を締結し、I C T を活用した中長期的な地域振興計画を策定しました。観光振興、定住促進、雇用創出、産業振興等、幅広い領域において目標を定め、その達成に向けた体制の整備と合わせた I C T の利活用計画を整理しました。

更に I C T 利活用を見据えた体制の整備を進めるとともに、まず始めることができる段階的な導入、検証を進めてまいります。

7 消防・防災

① 救急業務・火災予防

平成 28 年 4 月から本格的運用が開始された 1 1 9 番通報の定着を推進するとともに、救急搬送業務については、診療所等関係機関との連携を図り、円滑な体制が維持できるよう推進いたします。

与那国町消防団は非常備消防で消防操法の技術向上が課題であります。

今後も消防団員の技術向上のための訓練及び教育等の充実を図るため、沖縄県消防学校との連携を図り、消防操法等の技術向上に努めます。

与那国町の火災発生の実情に鑑み、原野火災に特化した新型消防車が導入され、迅速な消火体制が確保されるものと期待しております。

引き続き火災予防に万全の体制で努めてまいります。

② 防災・災害対策

今年度の防災訓練は、町役場の災害時における活動及び自衛隊との連携要領を確認するなど、図上訓練を実施するほか、住民参加型の住民避難、炊き出し訓練等の実施を計画いたします。

老朽化が著しい防災行政無線は、デジタル化や機能拡充を推進するための施設整備を充実いたします。

8 行財政改革推進

平成 30 年度から一部組織再編を行い、新しい課を設置いたします。住民サービスの多様化、事務量の増大、複雑化を勘案し、職員ひとりひとりの事務量、職員数の適正化を把握し、適正な定数確保、人事配置を行ってまいります。

人事評価制度につきましては、昨年度に引き続き同制度を確立するための職員研修を実施してまいります。職員のやる気を引き

出し、組織の活性化を図ることを目的に、人事評価制度を実施し、人材育成及び行政サービスの向上に取り組んでまいります。

税負担の公平性を図るため、沖縄県税務職員に対する、町税務職員への併任辞令を発令し、徴税職員の徴収技術向上に資することを目的として、専門知識を有する県税職員の指導を受け、滞納者の滞納処分を実施いたしております。

平成30年度も引き続き、沖縄県、石垣市、竹富町、及び与那国町税務職員の相互併任手続きを行い、滞納搜索の経験が豊富な、他市町職員と共に搜索を行うことで、本町の搜索ノウハウの向上を図ってまいります。自治体が異なっても、共同で滞納処分を実施することにより、圏域内の納税意識が向上することを期待しております。

9 新庁舎建設

新庁舎建設につきましては、早急に用地選定を行い、基本設計に着手できるよう推進してまいります。

むすびに

平成 30 年度の町政運営にあたり、私の基本姿勢と、所信の一端を申し述べてまいりましたが、これらの諸施策を執行するにあたりましては、職員とともに、全力で取り組んでまいります。町民の「安心・安全」を重要課題と位置づけ、常に、「責任ある使命感」をもって、町政運営に邁進する所存であります。

平成 30 年度当初予算編成にあたっては、一括交付金をはじめ、国県補助金の確保に努めるとともに、限られた財源を計画的、且つ、効率的に配分することを基本に、予算編成を行いました。

その結果、平成 30 年度予算については、

一 般 会 計 予 算	3,720,189,000 円
国民健康保険事業特別会計予算	267,291,000 円
簡易水道事業特別会計予算	285,035,000 円
介護保険事業特別会計予算	168,334,000 円
農業集落排水事業特別会計予算	29,559,000 円
漁業集落環境整備事業特別会計予算	8,645,000 円
後期高齢者医療特別会計予算	12,134,000 円
予 算 総 額	4,491,187,000 円

と編成し、予算案を提案する次第であります。

具体的な内容については、予算審議の際、ご説明申し上げます。

町民の皆様、町議会議員並びに関係者各位の一層のご理解、ご協力を賜り、課題山積の難局を、町民の皆様と共に乗り越えることができるものと確信しております。

伏してお願い申し上げます、私の施政方針といたします。

平成 30 年 3 月 7 日

与那国町長 外 間 守 吉